

園の実践事例紹介～「科学する心」を育てる～

社会福祉法人久良岐母子福祉会 くらき永田保育園（神奈川県）

皆さんの園では、どのようなねがいをもって、環境を構成されていますか？

くらき永田保育園では、0歳児から就学まで園で過ごす子どもたちが、乳児期からの育ちの中で、何に心動かし、何を学び、何を経験してほしいかを、10年以上にわたり園全体で、自然環境の視点から考え取り組んできた実践です。主体的な子どもの姿を引き出す環境とは？そこから育まれる「科学する心」とは？環境がもたらす意味について考えてみます。

● 乳児の森と生活の森。育まれる「科学する心」

✦ 乳児テラスに自然環境を作る

園の環境は、閑静な住宅地に囲まれています。近隣に自然物や様々な生き物と触れ合える公園は少なく、なっています。

園では、子どもたちが感性を働かせて豊かに遊び込めることを願い、10年程前から乳児が生活する2階のテラスに、土や泥、植物や虫など様々なことに触れる経験ができるようにと、「乳児の森」と「生活の森」という空間を作っています。



乳児のためのテラス

✦ 野草や木の実、土や泥、ビオトープやハーブガーデンが循環する

乳児の森

近隣の農家さんの畑などから分けてもらった土を利用していることもあり、「乳児の森」には一年を通して、地域の様々な野草が生えています。そのため、子どもたちは、自生している野草を遊びの素材に活用したり、土や泥まみれになって思う存分遊びこんだりする姿が見られています。また、巨大プランターには食べられる実がなる木が植わっており、子どもたちは季節の実を食べることを楽しみにするような文化が育まれています。



乳児の森

木育系の職員たち

「乳児の森」で、子どもたちが様々な自然や物に触れて五感を使い、たくさんの不思議と出会える環境を作れるように計画を立て管理しているのは、各クラスから選ばれた「木育係」の職員たちです。毎日、土起こしや水まきをしたり、定期的に遊びのスペースを区切って野草が生えてくるように、養生スペースを整えたりしています。冬には、霜柱や氷ができるよう水を撒き、野草が少ない冬でも自然遊びを楽しむ工夫をしています。



生活の森

生活の森

「生活の森」はビオトープがあり、多様な生き物が生息できる場所です。中にはメダカの池や鳥の巣箱、日本在来のスミレ等、様々な野草も生息しており、園の裏山から鳥や虫を呼べる環境を工夫しています。



野草とハーブガーデン

野草とハーブガーデン

ビオトープとハーブガーデンでは、約10種類のハーブを育てています。ハーブは、野遊びや造形活動にも使用しています。また、月1回、グリーンアンバサダーというボランティアさんの方に来ていただき、ハーブガーデンのお手入れをしてもらったり、職員向けの研修を継続的に行ったりしています。



メダカの池

● 真似ること、仮説をたてて自ら環境に働きかけていくことを学びのスタートに

✦ 1歳児「ユスラウメ」との出会い

5月頃、2歳児クラスの子どもがユスラウメを食べていたことがきっかけとなり、1歳児クラスのYちゃんもユスラウメに興味を持ちました。後日、Yちゃんもユスラウメを食べようとして、自分で実を採り水道に向かう姿がありました。保育士もついて行くと、水道の目の前でYちゃんが自分の指先を見つめて不思議そうな表情をしています。Yちゃんの指先を見てみるとユスラウメが潰れ、指先が赤くなっていました。

〔保育士〕 赤くなっちゃったね。

〔Yちゃん〕 うん。（水道の方を見る）

〔保育士〕 手を洗う？

〔Yちゃん〕 うん。（手を洗う）

〔保育士〕 おててどうなった？

〔Yちゃん〕 （指先を見つめる）

〔保育士〕 綺麗になったね。

〔Yちゃん〕 うん。（再び実を摘み指先を確認する）

Yちゃんが再び実を摘んだ時には、たまたま種を摘まんでしまった為、指先が赤くなりませんでした。Yちゃんはおそらく、指先がまた赤くなるだろうと考えて摘まんでいた為、赤くならなかった指先を見つめて首をかしげながら不思議そうな表情をしていました。そして、最後にユスラウメを触った時に指先が赤くなったということを保育士に伝えてくれる姿がありました。



①ユスラウメを食べる為に水道に洗いにきたYちゃん



②指先を見ると赤くなっている



③ユスラウメと指先を交互に見る



④水道で手を洗う



⑤再び指先を確認



⑥ユスラウメを触ったら指先が赤くなったことを保育士に伝える

—職員研修で、Yちゃんの「科学する心」を対話から分析・考察する—

「子どもは、小さな仮説を立て次の活動に繋げたり、AIでは出来ないようなワンショットラーニングを行ったりしている」と園長先生。それを聞いた職員たちは、純粋に“子どもってすごいな！”と感じました。

さらに、このユスラウメのようなエピソードを集めて考察すると、子どもたちの「気づき」の世界が見えてきました。園の「学びの黄金サイクル」に沿いながら、「科学する心を育む」とは何かについて考察をし、「子どもの学びは教えられて獲得していくものではなく自ら学ぶことが大事であり、そのスタートは“感じる”ことから」と意味づけ。「あーかな」「こーかな」と、自分なりの仮説を立てながら考えていくこと、これが学びのスタートに繋がると職員間で再確認しました。

無断転載を禁ず。引用する場合は右記を必ず明記願います。「(C)公益財団法人 ソニー教育財団 ソニー幼児教育支援プログラム幼児教育保育実践サイト <https://www.sony-ef.or.jp/preschool/>」